

編集後記

今回（62巻4号）の特集は高尾昌人先生の企画による「足関節鏡の鏡視下手術」である。直近の足の外科関連の特集としては、田中康仁先生の企画による58巻9号（2015年8月増大号）がある。その際にも足関節鏡の普及により診断・治療イノベーションが起こっていることに驚かされたが、今月号に掲載された10編の記事からは、そのモメンタムがさらに増大していることが見て取れた。吉村一朗先生によれば、足関節鏡の急速な普及は牽引ストラップの開発、イリゲーションポンプの導入、解剖学的知識の深化などに後押しされたようだが、少数のイノベティブな外科医により有用性と安全性が分かりやすく提示され、触発された新たな参入者が独自の工夫を提案して次々と加わることで、その活用がまさに対数螺旋を描くように増大し続ける様は圧巻である。

特集に引き続き、稲葉裕先生の医局制度に関するPersonal Viewを読み、考えさせられるところがあった。山崎豊子が『白い巨塔』に描いた医局制度のイメージもあって、兎角批判的となることが多い医局制度だが、稲葉先生は日本にのみ根付いたこの制度の利点を自らの体験に基づいて分かりやすく語っている。稲葉先生は自治医科大学出身ということで、卒業後10年間は神奈川県の記事に従い僻地医療に携わられた。卒業と同時に入局する場合と異なり大学の業務や研究への取り組みに多くのハンディがあり、当初戸惑いを感じた

が、インキュベータとしての医局機能を存分に活用することで今日の高みに到達できたと振り返る。私の元にも義務年限後に入局した自治医科大学出身者が複数いるが、いずれも高いモチベーションを維持する有能な人材である。医局制度を外から見つめたことのある人だからこそ利点に素直に気づき、積極的に活用できるという側面もあるように思う。私の率直な印象として、自治医科大学出身者には驚くほどエネルギーで高い適応能力を発揮する人が多いように思う。

そんな一人に池野文昭先生がいる。先生は浜松市出身で、日本屈指の巨大ダムであり、戦後日本の土木技術史の原点となったとされる佐久間ダム近郊で僻地医療に携わった。その後、ある医師の支援を得て何の研究歴もないままにスタンフォード大学に留学している。かなり厳しい状況だが、人並外れた人間力を駆使してシリコンバレーのエコシステムの体現者となり、スタンフォード大学でポストを獲得し、更に60億円の資金をもとにベンチャーキャピタルを立ち上げ、年間50回ほど来日して先進的な医療技術開発の芽を日本に育てるべく活動を続けている。私の元からも大学院生がスタンフォード大学で池野先生にご指導いただいており、その関わりで直接その足跡を伺うことができた。池野先生はその詳細をTED Talksでも熱く語っているので、若手医師にはぜひ閲覧をお勧めしたい。（平田 仁）

「整形・災害外科」第62巻 第4号（4月号） 2019年4月1日発行（毎月1回1日発行） 定価（本体2,500円＋税） 年間購読料金 定価（本体39,400円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。